

## 消化器外科の雑誌

天野 正弘

### I. はじめに

まだ医者となって10年しか経っていない私が、“臨床に役立つ雑誌、消化器外科”、について書くこととなりました。いわゆる研修医の立場から大学での研究生生活を経て一般消化器外科医になり、まだ2、3年しか経っていない私には消化器外科全般の総論を書けるほどの臨床経験ありません。日々の臨床がすべて学習のような状態の私が、十分な解説を書けるかどうか疑問ですが、いまの時点での私にとって役に立つ雑誌について書いてみようと思います。

まず私が雑誌を利用する目的としては、

- ①臨床症例の具体的な治療法を学習するため
- ②臨床症例の発表を行うため
- ③疾患の現時点での総論を知るため
- ④最新の情報を得るため

などがある。①、②のように、具体的な検索目的がある場合は、MEDLINE に代表されるインターネットを利用して、読む雑誌や文献を集めて読むことが最も効果的であり、③、④のような場合は、私自身が所属している学会機関誌や、病院で購読している学術雑誌を読んだり、最新の情報を求めるために関連学会に出席することとなる。

消化器外科は、扱う範囲の臓器が多く、食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓などがあり、その外科治療を担当する部門である。当然、消化器疾患の診断に関しては、内科領域、放射線科領域とオーバーラッ

プする部分が多い。また、治療に関しては、患者の高齢化とともに高血圧、糖尿病、心血管疾患などの合併症を複数合わせ持つ患者が増えており、内科との連携は必須である。骨盤内臓器の場合は泌尿器科、産婦人科との連携が必要となる場合もある。治療手段に関しても、特に最近では低侵襲な治療が求められ、IVR、早期癌の内視鏡下切除のように、内科、放射線科とオーバーラップする領域が広がってきている。

また、消化器外科とはいっても必要とされる基礎的知識として、外科病理学、腫瘍学、臨床免疫学、栄養と代謝など多岐にわたり、それぞれの分野が常に進歩し続けている。特に、消化器外科で対象となる疾患は、胆石症や痔疾患のような良性疾患は例外的であり、大多数は悪性疾患、いわゆる癌であり、腫瘍学、病理学が特に重要である。これらの知識および技術をすべての消化器臓器にわたって常に最新の情報を習得し学習し続けるのは困難であり、消化器外科医のなかでも対象とする臓器ごとに、食道・胃・十二指腸、小腸・大腸、肝・胆・膵、などと専門化しているのが一般的である。私自身も、一般消化器外科医でありたいと思いつつも、大腸疾患が専門となりつつある。

### II. 国内雑誌

#### 1. 学会機関誌

最新の臨床情報を得るためには、関連する学会に出席することが最善であろうが、一般病院で臨床に携わりながら出席できる学会の数は限られている。そこで、新しい情報を得る手段として、また広範囲の知識を得るために雑誌を活

用することとなる。

現在の外科では専門医制度が導入されてきており、私のような外科医は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会などいくつかの外科系学会に所属している。このうち、消化器外科医を目指す者として、文字どおり日本消化器外科学会には、まず所属することとなる。この日本消化器外科学会の専門医制度で業績として認められる発表学会を表1に、業績として認められる論文発表雑誌のうち学会機関誌を表2に、学術雑誌を表3に、英文雑誌のうち代表的な雑誌を表4に挙げる。このうち、私が主に活用している雑誌を以下に紹介する。

まず消化器外科全般にわたって代表的な雑誌として「日本消化器外科学会雑誌」があり、臨床研究の原著論文と症例報告が掲載されている。特に原著論文は、癌センターや大学病院など日本の先進的な医療機関からの報告があり、さまざまな疾患ごとに、治療方針、最新の治療方法、その治療成績など日々の臨床に役立つ最新の情報が多く、日本での医療の現状を知ることができる。

「日本外科学会雑誌」は毎回特集を組み、そのテーマに沿って日本を代表する施設からの原著がならび、興味あるテーマについての網羅的な知識が得られる。ただし、総論的な内容で、具体的な臨床内容には欠ける。テーマは外科全般にわたっているが、消化器外科に関するテーマが多い。

「日本臨床外科学会雑誌」は症例報告が中心となった構成で、「日本消化器外科学会雑誌」の症例報告と合わせ、臨床で出会うさまざまな症例の報告が多く、私自身の臨床の現場で役に立つことが多い。また、症例報告は一般病院からの報告が多く、私たちのような駆け出しの消化器外科医が投稿しようとする場合、対象となる雑誌である。

「日本消化器病学会誌」は外科よりも内科が中心となる雑誌であるが、消化器に対する診断、治療はオーバーラップする範囲が多く、また、

消化器に対する勉強をするためにも必要な雑誌である。

「Gastroenterological Endoscopy (日本消化器内視鏡学会雑誌)」—消化器外科医にとって、術前に病変の診断を行うための内視鏡検査は必須の手技であり、また最近では内視鏡下治療が積極的に行われるようになってきおり、内視鏡診断を中心に治療も含めた症例報告が中心となっている。

「日本大腸肛門病学会雑誌」—前にも述べたが、消化器外科医のなかでも専門化が進んでおり、私の専門が大腸であるため、この雑誌を読む機会が最も多い。大腸肛門領域の臨床研究から実際の診療での工夫まで、具体的な内容で非常に役立っている。

雑誌紹介とは異なるが、全国規模の代表的な学会以外にも腫瘍マーカー研究会、癌局所療法研究会、癌免疫外科学会など専門領域に絞った研究会も数多くあり、基礎と臨床が入り交じり、より細かい検討を行っている。また、近畿、兵庫県、阪神間などの各地方レベルでの研究会もあり、私たちの勉強の場となっている。

## 2. 学術雑誌

どの雑誌も毎回、消化器疾患に対する診断、治療の特集を組んでいて、より臨床に密接した記事内容となっている。

「消化器外科」—消化器外科の手術について研修医にもよくわかるように、写真やカラフルなイラストを交えて解説している。定期購読している研修医も多く、臨時増刊号が特に役立つ。

「胃と腸」—毎回、消化管に関する特集を組み、消化器全般にわたる勉強になる。

「手術」—さまざまな施設の手術方法が細かに解説されており、最近読む機会が多い。

「外科」・「外科治療」—外科に関する特集で一般知識を身につけるのによい雑誌だと思う。

「肝胆脾」・「胆と脾」—肝・胆・脾についての手術の特集は、私にとって勉強になる。

表にはないが、私の購読している雑誌で「早

表 1. 消化器外科関連学会

日本医学会総会	日本外科代謝栄養学会
日本胃癌学会	日本消化器外科学会
日本移植学会	日本消化器集団検診学会
日本肝臓学会	日本消化器内視鏡学会
日本肝胆臓外科学会	日本消化器病学会
日本癌学会	日本小児外科学会
日本癌治療学会	日本脾臓学会
日本気管食道科学会	日本胆道学会
日本救急医学会	日本大腸肛門病学会
日本胸部外科学会	日本内視鏡外科学会
日本外科学会	日本腹部救急医学会
日本外科系連合学会	日本臨床外科学会

表 2. 消化器外科関連学会機関誌

移植 (日本移植学会雑誌)	日本救急医学会雑誌
肝臓 (日本肝臓学会雑誌)	日本胸部外科学会雑誌
Gastroenterological Endoscopy : 日本消化器内視鏡学会雑誌	日本外科学会雑誌
外科と代謝・栄養	日本外科系連合学会誌
Journal of Medical Ultrasonics : 超音波医学	日本消化器外科学会雑誌
脾臓	日本消化器集団検診学会雑誌
胆道	日本消化器病学会雑誌
日本医学会総会誌	日本小児外科学会雑誌
日本癌治療学会誌	日本大腸肛門病学会雑誌
日本気管食道科学会会報	日本内視鏡外科学会雑誌
	日本腹部救急医学会雑誌
	日本臨床外科学会雑誌

表 3. 消化器外科関連学術雑誌

医学のあゆみ (医歯薬出版)	Progress of digestive endoscopy : 消化器内視鏡の進歩 (日本消化器内視鏡学会関東支部会)
胃と腸 (医学書院)	小児外科 (東京医学社)
肝胆脾 (アークメディア)	診断と治療 (診断と治療社)
癌と化学療法 (癌と化学療法社)	総合臨牀 (永井書店)
癌の臨床 (篠原出版新社)	胆と脾 (医学図書出版)
救急医学 (へるす出版)	治療 (南山堂)
胸部外科 (南江堂)	日本医師会雑誌 (日本医師会)
外科 (南江堂)	日本臨牀 (日本臨牀社)
外科治療 (永井書店)	臨床外科 (医学書院)
最新医学 (最新医学社)	臨床と研究 (大道學館出版部)
手術 (金原出版)	
消化器科 (科学評論社)	
消化器外科 (へるす出版)	

表 4. 英文雑誌

Annals of Surgery	Nature
Archives of Surgery	Nature Genetics
British Journal of Cancer	Nature Medicine
British Journal of Surgery	New England Journal of Medicine
Cancer	Science
Cancer Research	Surgery
Cell	Japanese Journal of Cancer Research (日本癌学会)
Clinical Cancer Research	International Journal of Clinical Oncology (日本癌治療学会)
Disease of the Colon and Rectum	Surgery Today (日本外科学会)
Gastroenterology	
Hepatology	
Lancet	

期大腸癌」(日本メデイカルセンター)があり、大腸内視鏡の手技、その診断法、内視鏡下治療、腹腔鏡下手術と、事細かな内容となっている。専門の私にとっては非常に役立つ雑誌であるが、一般的ではないかもしれない。

### Ⅲ. 英文雑誌

私も大学に在籍していた時と比べ、一般病院に勤務するようになった現在、英文雑誌を読む機会が少なくなっている。大学では、臨床外科に役立つことをめざしながらも、腫瘍、免疫、遺伝子など基礎的な研究が主となり、「Nature」「Nature Medicine」「Science」「Cell」「Cancer Reserch」「Clinical Cancer Reserch」「Cancer」などの impact factor の高い基礎科学雑誌を読む機会が多かった。これらの雑誌は、幸いにも現在所属する病院の図書館にもほとんど揃っており、直接臨床に役立つわけではないが、時々タイトルだけでも目を通すようにしている。

さて、本題に戻って、臨床に役立つ雑誌ということでは、「Annals of Surgery」「Cancer」「Gastroenterology」「Hepatology」「New England Journal of Medicine」「Surgery」「Archives of Surgery」などである。消化器外科の

領域、特に消化管の領域では、決して日本が欧米と比べ遅れているわけではなく、「Cancer」「Gastroenterology」では、興味深いタイトルだと思うと、日本からの投稿であることがよくある。しかし、移植などの特殊な分野や、化学療法、放射線療法などの幅広い臨床試験の内容は、日本より欧米での研究内容が進んでおり英文雑誌を読んで参考となることが多い。外科に関しては「Annals of Surgery」が、欧米での臨床の現状がわかり、参考となる。

### Ⅳ. おわりに

消化器外科領域の雑誌を私なりに紹介してみた。かなり多くの雑誌を羅列したが、もちろん、すべての雑誌を読めるものではない。私がいつも読んでいるのは、所属する学会機関誌と幾つかの学術誌、それと2、3の英文雑誌のタイトル程度である。まだまだ、消化器全般にわたって雑誌を読み、広い分野の勉強をしなければいけないと考えている。その一方、臨床の現場では、専門分野で必要とされる知識も技術も年ごとに増えている。より深い専門分野の知識と、より広い医者としての知識をどう身につけるか、より効率的な方法が必要である。